

【九十七歳祝い】カジマヤー名嘉瀬 中川山眞 カジマヤーヌウエー眞 9月7日に97歳の長寿のお祝いをする。かざぐるま(風車)のことをカジマヤーといい、人は誰でもこの年齢になると童心に返ると考えられ、風車を飾って祝うことから、97歳の祝いをカジマヤーという。カジマヤー該当者の健康状態によっては、地域で集落を巡り、公民館で祝賀会を行う場合がある。集落を廻る際には花車を先頭に集落内の七つの橋と七つのアジマー(十字路)を巡る。また、村や区から長寿を祝って記念品が贈られる。予算も字の予算に計上されるなど、区民上げて祝う日である。現在はオープンカーに着飾った本人を乗せて地域を巡る。棒を使う若い青年や、成人会、踊りをする婦人会、子どもたちと区民総出で祝う。



南恩納のカジマヤー(2008年)



谷茶のカジマヤー(2015年)

最後に、「人の死」に関連する言葉です。人が亡くなるとその故人とお別れをするためにさまざまな儀式が行われます。その際に使われる道具や儀式の方法もそれぞれの地域で伝承されてきました。



南恩納の龕(恩納村博物館所蔵・村指定文化財)

【龕】がん ①ガン名嘉瀬 中川山眞 ②コウ名嘉瀬 中川山眞 ③アカン眞 遺体を納めた棺を墓まで運ぶための朱塗りの輿のこと。恩納のガンはチャギ(イヌマキ)などでつくられていた。恩納村内ではかつて名嘉真、安富祖、恩納(瀬良垣、太田も恩納区のもの借りた)、南恩納、谷茶、富着と前兼久は共有、仲泊、山田、真栄田(塩屋、宇加地と共有)でそれぞれ所有していた。普段はガンヤ(龕屋)に保管されていた。富着と前兼久は字界にガンヤがあった。瀬良垣ではガンを所有していなかったため、死者が出た時は恩納から借りた。恩納から瀬良垣までガンを運ぶ際にはメーキ原入口(ANAインターコンチネンタル万座ビーチリゾート入口)で一旦休憩していた。ガンは組み立て式になっており台座は4人で担ぎ、本体の一式は箱の中に納め一人で担いだ。死者の家に着いてから組み立てを行ったという。村内で現存するガンは恩納村博物館に所蔵されている南恩納区のものだけである。

まだまだ確認できていない言葉がたくさんあります。再度確認しなければならぬ言葉もたくさんあり、今後も各地域に伺います。よろしくお願いたします。  
(幸喜)

【参考文献】

- ・『いやしの里 名嘉真』2012年
- ・『とよむあふす 安富祖字誌』2001年
- ・『花と水の里 喜瀬武原字誌』2005年
- ・『恩納字誌』2007年
- ・『字誌山田』2019年
- ・『真栄田誌』2017年
- ・『恩納村の民話 昔話編』1982年
- ・『沖縄の民俗』創刊号 1969年
- ・『言語編』調査データ
- ・『民俗編』調査データ